

韓国環境部プレスリリース 2019年10月30日付

以下、機械翻訳などによる仮訳

**京畿道坡州市民統線内の死亡野生いのしし2体からASFウイルス検出
(野生いのしし17-18例目)**

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?boardMasterId=1&boardId=1070310&menuId=286>

環境部所属の国立環境科学院（院長チャン・ユンソク）は京畿道坡州市民統線内の郡内面白蓮里と亭子里の10月29日に発見されたイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルスが検出されたと10月30日明らかにした。

京畿道坡州市所在の軍部隊が10月29日、イノシシへい死体の特別捜索を行っていたところ、3体のへい死体を発見し、坡州市に申告した。坡州市は、野生イノシシアフリカ豚コレラ標準行動指針により、死体を埋却し採取した試料を国立環境科学院に送った。

※試料採取及びへい死体埋却後の作業者の消毒、周辺防疫作業の実施

10月30日午後1時頃、国立環境科学院は申告された3つのへい死体のうち2体からアフリカ豚コレラウイルスを確認して結果を関係機関に通報した。これで、坡州地域で5件のアフリカ豚コレラが確認されており、全国的には18件に増えた。

チョン・ウォンファ国立環境科学院・生物安全研究チーム長は「白蓮里と亭子里は10月23日にウイルスが検出された石串里から約6kmと9km離れており、全て民統線内であり、感染地域管理に向けて、速やかにフェンスを設置する予定である」と述べた。

(以上)